

# オピオイド鎮痛薬の等価換算表

R6.9現在

	成分名	時間	薬品名	単位	投与量(等価換算)							備考	
					30	60	90	120	180	240	360		
経口	モルヒネ	徐放	モルヒネ塩酸塩錠	mg/日	30	60	90	120	180	240	360		
			モルヒネ塩酸塩原末										
			パシーフCap										
			MSコンチン錠										
			MSツワイシロンCap										
	モルベス細粒												
	オキシコドン	徐放	オキシコンチンTR		20	40	60	80	120	160	240		NXはナロキソン配合の意味
			オキシコドン徐放錠NX										
			オキシコドン徐放Cap										
	ヒドロモルフォン塩酸塩	徐放	ナルサス錠		6	12	18	24	36	48	72		
タペンタドール塩酸塩		タペンタ錠	100	200	300	400	600	800	1200				
トラマドール		トラマールOD錠	150	300	400mg/日以上は投与不可					300mg以上は強オピへ			
		トラムセット配合錠											
	徐放	ワントラム錠											
コデインリン酸塩		コデインリン酸塩原末・10%	300										
		コデインリン酸塩錠20mg											
メサドン塩酸塩		メサベイン錠		15		30		45					
パッチ	フェンタニル	72H	デュロテップMTパッチ	mg/3日	2.1	4.2	6.3	8.4	12.6	16.8	25.2	フェンタニル貼付剤からオピオイド製剤への切り替えは、剥離後12時間後に行う。50~75%減量を考慮	
			フェンタニル3日用テープ										
	24H	ワンデュロパッチ	mg/日	0.84	1.7		3.4	5					
		フェンタニル1日用テープ											
フェンタニルクエン酸塩		フェントステープ	1	2	3	4	6	8	12				
		フェンタニルクエン酸塩1日用テープ											
坐薬	モルヒネ		アンベック坐剤	mg/日	20	40	60	80	120	160	240		
注射	モルヒネ		モルヒネ塩酸塩注	mg/日	15	30	45	60	90	120	180		
			アンベック注										
	オキシコドン		オキファスト注		15	30	45	60	90	120	180		
	ヒドロモルフォン塩酸塩		ナルベイン注		1.2	2.4	3.6	4.8	7.2	9.6	14.4		
	フェンタニルクエン酸塩		フェンタニル注		0.3	0.6	0.9	1.2	1.8	2.4	3.6		
レスキュー	各種注射剤		上記		1時間量を早送り							10~20分間隔で追加可	
	モルヒネ		オプソ内服液	mg/回	5	10	15	20	30	40	60	60分間隔で追加可 NXはナロキソン配合の意味	
	オキシコドン		オキノーム散	2.5~5	5~10	10	10~20	15~30	25~30	40			
			オキシコドン錠NX										
		オキシコドン内服液											
	ヒドロモルフォン塩酸塩		ナルラビド錠	1	2	3	4	6	8	12			
フェンタニルクエン酸塩		アブストラル舌下錠	μg/回	100→200→300→400→600→800まで、常に最小量から開始							30分後に同一用量1回のみ追加可。2時間開けて4回/日まで		
		イーフェンバツカル錠		50→100→200→400→600→800まで、常に最小量から開始							30分後に同一用量1回のみ追加可。4時間開けて4回/日まで		

※フェンタニルクエン酸塩レスキュー剤は、強オピオイドの定時投与中のがん患者における突出痛(一時的に表れる強い痛み)にのみ使用でき、回数制限がある点に注意

※ナルサス→ナルベインは5分の1、ナルベイン→ナルサスは2.5~3倍で換算する

※eGFR<30、重篤な腎機能障害の場合にはフェンタニルを推奨

※腎機能障害、高齢者へのモルヒネの投与は50%減量を検討

※レスキューの1回量は、同成分の1日量の約1/6を目安に。同成分のないフェンタニルはモルヒネやオキシコドンを使用。

※内服レスキューの場合は1時間(持続注射の場合15分)あれば何度でも使用可能。1日4回以上使用する場合は、定期薬増量を検討

※フェンタニルは肝臓で初回通過効果を受けて不活性化されるため内服はない。内服製剤は初回通過効果を受けない舌下錠とバツカル錠のみ。

※オキシコドンNXはナロキソンを配合することで薬物乱用を防止している(ナロキソンは経口だとフェンタニルのように初回通過効果で代謝されるので作用は拮抗しないが、粉碎して静脈内投与する場合のみ拮抗する。)